

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298800028		
法人名	社会福祉法人おかげさま		
事業所名	夢ほ一む(秋桜)		
所在地	千葉県南房総市千倉町南朝夷1661		
自己評価作成日	平成23年12月2日	評価結果市町村受理日	平成24年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成23年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①認知症の方が地域で安心して暮らせるように地域の行事に参加したり、警察とも連携体制を取っている。</p> <p>②地域の方の認知症に対する理解を深めて頂けるよう、認知症サポーター養成の為にキャラバンメイトとしての活動を始めている。認知症メモリーウォークにも利用者・家族と参加している。</p> <p>③運営推進会議(4回/年)・家族会(3回/年)を開催し、公明・公正な施設運営に心がけている。</p> <p>④施設の理念・基本方針が職員間の共通認識で決定されている。</p> <p>⑤認知症介護実践者・リーダー・指導者研修に積極的に参加するとともに研修生の受け入れもしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>温暖な気候と地域住民の温かさを感じられる環境に恵まれた地にある。ホームの理念である「ともに生きる」を管理者、計画作成担当者、介護支援専門員、介護職員が日々の業務内で実践に繋げるよう努めている。職員研修に積極的に取り組んでおり、介護に対する意識が高い。調理担当者は調理専門職としての経験者で、食事は入居者の楽しみになっている。市の要請により、災害発生時の地域住民の避難所の指定を応諾している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ともに生きるという理念の下、地域の一人として、地域とのつながりを大切に、家族会や運営推進会議を通し認知症への理解を深めて頂けるようにしている。	毎月行われる会議で職員に周知している。「ともに生きる」の理念は日々の業務の中で実践に生かされている。職員の介護に対する意識の高さが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ拾いや海岸清掃、お祭りを通し職員、利用者様が参加している。 流しそめん等の企画にもボランティアとして地域の方に参加して頂いている。	ホーム建設の場所の選定条件として、小学校、幼稚園が近隣地域にある事を上げてあり、ホーム開設後も小学校と係わりが深く、管理者は認知症について講演を行っている。散歩に出かけて子供の活動を見学したり、小学生や幼稚園生が訪れたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	9/22(木)に認知症メモリーウォークを開催し、地域の方達への啓蒙活動を行った。 又、小学校においても子供達に認知症についての話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、定期的に行っている。地域住民や家族に参加して頂き、開かれたホームを目指し、意見交換をさせて頂いている。	運営推進会議には、地域住民代表、保健推進委員、家族会代表、民生委員、地域包括支援センター担当者などが参加し、年4回実施している。震災時の避難者の受け入れについても意見交換がされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南房総市の福祉施設整備計画に事業者側として参画している。地域包括センター、市の高齢者福祉課とも連携をとりアドバイス頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族より転倒のリスク軽減の為、拘束希望があった時も話し合いの場を持ち、経過を見る中で廃止している。	管理者も職員も身体拘束について理解しており、原則として行わないこととしている。服薬による身体拘束がないように、受診時に利用者の現状を記録で伝え、医師が正確に判断出来るよう支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持つようにする中で、内部研修を行ったり、カンファレンスの中でも利用者様に対する態度や言葉使いに注意を払っている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が成年後見人として活動している。又、制度を利用するご家族に対して書類作成の手伝いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議や家族会において説明し、理解頂けるようにしている。出席できなかった方にも後日報告書をお出ししている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4ヶ月に1回定期的に家族会を開催し、意見交換している。全員に報告書を送付し、情報共有している。主治医の訪問診療時に常時4～6名の家族が来所し、家族・職員と交流を図る機会にもなっている。	主治医の訪問診療時には家族が訪問している。家族訪問時は職員と家族の交流の場になり、職員から積極的に情報を提供して家族の意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議を通し職員の意見を聞いている。それ以外にも、必要と思われる職員と、都度面談をしている。	毎月行われている管理職会議に管理者、計画作成担当者、センター長、介護主任が参加し意見や提案をしている。毎月管理者が職員と面談し、意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの能力に応じ責任を持って働けるようにしている。本人の学びたい研修への支援もする事でやりがいにもつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じ研修を行っている。又、研修に行った職員が内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安房地域のグループホームの管理者で2ヶ月に1回つどいを開催し、職員の交流をしている。介護職員の勉強会を行っている。		

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には環境が変わった事による不安を感じておられるので、様子を見ていく中で、話を聞く時間を多く持ち、信頼の関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来所した時や事前面接時に話を聞いている。お互いに不安がないよう、時には何度も訪問し関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを聞く中で入所だけではなく、通所等の他のサービス利用についても提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだり、食器拭き等、出来る事をして頂き感謝の言葉を伝える事でやりがいを感じて頂ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていくのは職員だけではなくご家族と一緒に支えていく必要があるという事をご家族にも伝えている。利用者様の情報を共有する事で共に支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加等を通じて、友人、知人との縁が切れないよう配慮している。お祭りの時には山車や子供みこしが施設内に入って来てくれる事で、子供の頃から慣れ親しんだ「お祭り」に参加出来ている。	入所以前の主治医を希望する人は継続してかかっている。地域の祭礼の山車がホームの敷地まで入ってきてくれ、これまでも慣れ親しんでいた行事に参加できて入居者の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に過したり自然に離れたりできる様支援している。利用者様同士の助け合いもある。ユニット間・デイサービスとの交流を通じ、より良い関係作りができるようにしている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族が訪問して下さる関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から思いを聞くことはもちろん聞けない場合はサマリーやご家族等のお話を聞き、支援に反映させている。	日常気付いた点は業務日誌に記録するとともに特記事項は個人記録にも記載している。業務日誌を毎日必ず見ることにより、情報共有の徹底を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、サマリーから情報を得て把握に努めている。また、夢ほ一むでの様子もご家族に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録や訪問看護、主治医との情報を全員で共有・安全に配慮し、その中で最大限有する力を使って頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の記録へ細かく記入、各担当が中心となってカンファレンス等の場で話し合い、又ご家族・ご本人の思いを汲みとって計画に反映させている。	カンファレンスは各入居者の担当者とケアマネジャーを中心に当日出勤の職員参加により開催し、その際には業務日誌の特記事項や家族意見を参考に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様が喜ばれた事やそうでない事を細かく記録・申し送り、全員で情報を共有し、支援方法を見直している。支援方法変更後は、特に詳細に様子を記録する事で評価に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人のデイサービスセンターやグループホーム間で連携を取る事により、入所者様を法人全体で支援する事ができている。又、共用型デイサービスを行う事で、在宅生活を支える一助になっている。		

【評価期間】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校、幼稚園、また祭礼の際等協力して頂いて、日々の生活を楽しんで頂いている。また、消防、近隣の方々、ボランティア(理髪やマッサージ)等とも連携し、日々の暮らしを豊かにできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の理事長が主治医であり、月2回の往診を中心とし、健康診断や、必要に応じて診療所への受診をして頂いている。歯科に関しても5か月に1回の口腔内チェックをして頂き、受診に繋げる事が出来ている。	これまでのかかりつけ医の受診を希望する人はかかれるよう支援している。法人の理事長が主治医であり、毎週主治医と看護師が交代で往診があるほか、歯科と訪問看護とは連携体制が組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師はいないが、24時間連携契約により、月2回訪問看護に来て頂いている。それ以外にも、利用者様に変化があれば、都度状況を伝え対応を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の理事長が主治医であり、普段から入院とならないよう健康管理に努めているが、もし入院となった場合も医師・主治医・訪問看護との連携のもと支援体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応についてはご家族、ご本人の思いを尊重した上で対応させて頂いている。訪問看護・主治医とも連携し情報を提供している。往診時にご家族にも同席をお願いしています。	看取り介護の実績があり、対応については入居時に家族に説明している。家族、主治医等の連携により受け入れ態勢が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には急変時の対応を伝え、訪問看護や主治医への連絡体制も整えている。対応については定期的ではないが勉強会を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、非常時の対応・避難方法について確認している。防災機器も年2回の定期点検を行っている。	年2回の防災訓練は、職員や軽度の入居者が被災者役となって夜間を想定して実施している。災害時の近隣住民による応援体制の強化を今後の課題としている。市の要請により、災害発生時の地域住民の避難所の指定を承諾しており、機能充実を検討中である。	

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない言葉かけ対応に気を付けている。居室で一人で過ごされる方も多いので居室でお茶を飲んで頂いたり、一人の時間も大切にしている。	職員研修により徹底を図っている。また、プライバシーの保護については、部外者から「利用しているか否か」の問い合わせにも回答しない旨を運営基本方針に明記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力に合わせて会話している。又、個別に話しをする時間をとることで、その人の思いや希望を聞いたり、感情を表出できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々のニーズに合わせて対応している。居室で横になる方、隣のデイサービスに行かれる方、又10月より2ユニットになり隣のホームに行かれる方、散歩を希望する方と希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容についてはご家族となじみの店に行かれる方もいる。衣類については、利用者さんから相談を受ける時は、一緒に考え訴えの出来ない方は、その人らしさが出る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栽培した野菜を利用したり、土地柄魚類が豊富な事もあり季節感ある食事を提供している。食材の下ごしらえ・片付け等利用者様と共にしている。	昼・夕食については調理専従職員が担当し、質の充実と入居者満足を図っている。地元産食材を中心にホームの菜園の野菜を加え、下ごしらえには入居者の有志が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた量、食べやすさを考え提供している。水分摂取しにくい方には、好みの物を聞き提供している。記録をつける事で摂取量を把握し、摂取量の少ない方には定時以外にも声かけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	5ヶ月に1回訪問歯科往診を受け、口腔内チェックをして頂きアドバイスを頂いている。毎食後一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援を行っている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導し、トイレでの排泄につなげている。又、排泄サインを見逃さない様に努めている。	排泄チェック表によりトイレ誘導をしている。日中については、下着は極力軽装として自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひじきやヨーグルト等、便秘改善に良い食品を取り入れている。おやつ前にラジオ体操をしたり、敷地内にあるお地藏様へのお参りをする事で体を動かす様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な利用者様は週2~3回入浴している。入浴剤や菖蒲等を入れ楽しんでいる。利用者様本人に希望を聞き入浴して頂いている。	入居者の要望に沿って対応している。入浴記録表には一人ひとりについて注意事項などを記載し、安全に入浴してもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	イスやソファで休息したり、居室で休んで頂く等、利用者一人ひとりに応じた場所で、くつろいで頂いている。又、エアコンを使用する事で本人の希望する室温にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を実施し、チェック表に記録している。体調に変化があった場合は、訪問看護に連絡を取り、情報を伝え、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりに合った、洗濯たたみ、食器拭き等手伝って頂き、張り合いになっている。その際、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。気分転換に散歩やドライブ等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	夢ほ一むの外回りを散歩したり、お地藏様にお参りしたり、近くの小学校等に出かけている。ドライブで少し遠い所へと出掛け、喜ばれている。	ホーム敷地内には舗装された周遊路があり、花壇や菜園、地藏尊が点在し、散歩コースとしている。外出行事には力を入れており、行事企画担当が実施している。	

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、お金を持つ場合について説明させて頂いているが、現在は本人がお金を持っている事はない。購入希望がある物については、職員が買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方や、電話の希望がある方には対応すると共にご家族にも電話を下さるようお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下は大きな窓があり、太陽の光が差し込む為、明るい空間となっている。敷地内には、花、野菜を作っており皆様に季節を感じて頂いている。	利用者本位の設計と設備が随所に見られるとともに、職員の動きにも配慮している。増設したユニットは職員の見解を取り入れて設計した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に、椅子や畳を用意し、ひとりになれるような場所を提供してしている為、外を眺め気分転換を図ることができている。食堂には寛ぐためのソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からなじみの物を持ち込みその人らしい居室になっている。ご家族にもなじみの物を持ち込む事で本人が居心地良く、安心できる居室作りをお願いしている。	入居者の愛用品の持ち込みは自由であり、室内は各自の好みが生かされている。クロゼットを広くとることにより、持ち物の整頓と災害時対策にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所の非常口には、スロープを設置して段差をなくし、安全になっている。ご本人の部屋のネームプレートもご家族の了解を得て、本人の目線に合うように取り付けている。		

【評価期間】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所